

地域調査を取り入れた大学教職科目の授業

－奈良教育大学における初等教科教育法社会の場合－

岩本廣美

(奈良教育大学 社会科教育講座 (社会科教育))

Using Fieldwork in Teaching Elementary Social Studies: A Case Study at Nara University of Education

Hiroimi IWAMOTO

(Department of Social studies, Nara University of Education)

要旨：本稿は、奈良教育大学で筆者が担当している授業のひとつである初等教科教育法社会に野外観察および地域調査を取り入れている意図や内容について具体的に述べたものである。野外観察の指導では、学生が日頃気づくことのない視点による観察を奈良公園で展開したことを述べた。地域調査では、学生から多様な地域調査テーマを引き出せるような条件設定および留意点の提示を行った。その結果、学生から提示されたそれぞれのテーマは、小学校学習指導要領社会第3・4学年の内容(1)～(5)のいずれかにあてはまることが明らかとなり、結果的に小学校社会第3・4学年の広範な内容を取り上げることに結びついた。

キーワード：小学校社会 elementary social studies
教職科目 teaching subjects
野外観察・地域調査 fieldwork
ポスターセッション poster session

1. はじめに

平成20年版小学校学習指導要領社会第3学年及び第4学年で示された目標(3)では、「地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて・・・」(下線は筆者による)と記されている。このことは、奈良教育大学(以下、本学と記す)で開講されている初等教科教育法社会(以下、初教法社会と記す)の授業展開の中で、観察や調査についても具体的に取るべきであることを意味している。初教法社会は、教職専門科目(以下、教職授業)のひとつであり、小学校教員免許取得のための必須科目である。筆者は、本学における初教法社会の担当者ひとりとして、野外観察については取り組みの一端を述べたことがある(岩本1993)。本稿は、その後初教法社会に取り入れた地域調査について、取り組みの意図と実際の状況を報告し、若干の考察を述べるものである。

井田(2000)は、教職授業の中で展開する野外観察・調査を教師主導型と学生主体型に分け、それぞれの意義を述べている。教師主導型は、学生が「野外でみられる様々な事象の説明を受け、気づかなかった点を指摘され、さらにその事象が存在する要因までを理解することができる」も

のである。学生主体型は、学生が「野外で活動できる開放感と自らの計画にしたがって活動できる充実感、聞き取りの調査を通じた人々のふれあいの新鮮さがある」ものである。筆者が担当する初教法社会では、教師主導型と学生主体型の両方を取り入れており、前者を野外観察、後者を地域調査と呼ぶことにする。本稿でとくに力点を置いて述べようとするのは、学生主体型の地域調査についてであるが、これとの関連で教師主導型の野外観察についても、その意図や内容を具体的に述べる。岩本(1993)で報告した野外観察の内容を、その後全面的に変更していることを考慮したためである。

小学校社会に関わる教職授業の中で野外観察を取り入れた取り組みは、井田ほか(1992)、篠原(1995a)、西脇(1997)で報告されているが、地域調査を取り入れている事例はほとんど見られない¹。外池(2010)は、その例外的なものであるが、いわゆる研究室の学生を対象にしたごく少人数の取り組みであり、本学の初教法社会との比較は困難である。

以下では、2015年度前期に実施した初教法社会の場合について、まず目的や概要を述べる(第2章)。次に野外観察の意図や実際の状況を述べる(第3章)。最後に地域調査の意図および学生が選択したテーマと学習指導要領の内容との関連について述べる(第4章)。

2. 初等教科教育法・社会の目的と概要

初教法社会は、2年次の前期に開講している教職授業のひとつである。小学校教員免許を取得する学生は、この授業2単位を必ず履修しなければならない。2015年度におけるこの授業の受講登録者数は合計212名であり、月曜日1・2時限(9:00~10:30)と火曜日7・8時限(14:40~16:10)のそれぞれの時間枠で2クラスずつ、計4クラスに分けて指導している。筆者は月曜日、火曜日ともそれぞれ1クラス、計2クラスを担当している。筆者担当クラスの受講登録者数は、月曜日51名、火曜日62名であった。

初教法社会は、学生に小学校社会の指導法を教授するための授業であるが、筆者は本学でWeb公開しているシラバスで次のように目的を記述している。すなわち「この授業の目的は、小学校社会の授業づくりにとって授業者自身が学習テーマを発見することがきわめて大切であることを、大学周辺の地域素材や地図・資料などの検討を通して、受講生に具体的に理解してもらうことです。」(下線は筆者による)とし、「発見」をキーワードのひとつにしている。

半期15回の授業の構成は次のとおりである。

- (1) オリエンテーション
- (2) 小学校社会の目標・内容・方法の特色
- (3) 地域環境の観察方法と子どもの実態
- (4) 地域環境の把握方法：大学周辺の地理的特徴
- (5) 地域環境の实地観察①：奈良公園
- (6) 地域環境の实地観察②：奈良町
- (7) 地域環境の観察結果の活用
- (8) 地理学習の指導①都道府県の指導と日本地図の活用
- (9) 地理学習の指導②世界の国々の指導と世界地図・地球儀の活用
- (10) 歴史学習の指導①昔の暮らし、文化財
- (11) 歴史学習の指導②歴史上の人物
- (12) 発表会(ポスターセッション)①
- (13) 発表会(ポスターセッション)②
- (14) 発表・地図作品のまとめ
- (15) 小学校社会と総合学習との連携：新聞の扱いを中心に

下線部は、野外観察および地域調査と関連する箇所である。5回目(5月11日・12日実施)と6回目(5月18日・19日実施)は野外観察の指導に当たった。その前の4回目の授業では、野外観察を実施する奈良公園や奈良町を含む奈良市中心部付近の地形、土地利用、交通機関等の地理的特徴や平城京の設置等の歴史的背景について、資料をもとに講義を行い、野外観察の動機付けも兼ねた。また、事後の7回目の授業では、映像(スライド)を通して野外観察の内容を振り返るとともに補足の講義を行った。野外観察の指導のために授業時間を当てるのは直接的には2回分であるが、前後の授業も含めると、内容的には4回分を当てたことになる。

12回目(6月29日・30日実施)と13回目(7月6日・7日実施)は、学生が地域調査の結果を発表する発表会の実施に当て、ポスターセッションを実施した。学生には、この発表会に向けて授業時間外に各自で地域調査をすることを課した。ポスターセッションに至るまでの学生が取り組むべき課題や注意事項を表した資料(ガイドラインと呼んでいる)を用いて課題の説明をするのは7回目の授業時であり、以降の授業でも関連する説明を行っているため、ポスターセッションに至るまでに実質0.5回分相当の授業時間を割いていることになる。発表会後の14回目では、個々の学生の地域調査テーマと学習指導要領の内容との関連を確認する講義をしている。以上から、ポスターセッションの前後の授業も含めて、地域調査に関わる内容に3.5回分を当てていることになる。

野外観察および地域調査に関わる内容に15回の授業のうち7.5回分すなわち授業時間の半分を当てていることになるが、小学校社会第3・4学年の内容に相当すると見ればこうした時間配分はおおよそ妥当であるといえよう²。

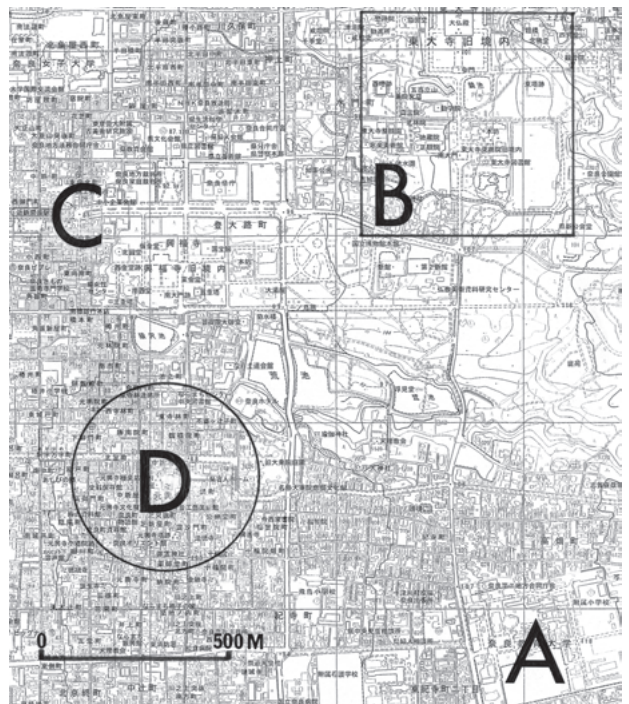


図1. 野外観察・地域調査を実施した地域

(A: 奈良教育大学、B: 図2の範囲、C: 近鉄奈良駅、D: 元興寺を中心とした奈良町の核心地域、1万分の1地形図「奈良」をもとに筆者作成)

3. 野外観察の意図と内容

3. 1. 野外観察の意図

野外観察を取り入れた授業は、50~60名の学生を奈良公園³と奈良町⁴の2方面に分け、それぞれ25~30名を対

象に実施した(図1)。学生は、野外観察の1週目と2週目で入れ替わり、全員が奈良公園と奈良町の両方で野外観察の授業に参加したことになる。筆者は、1週目、2週目とも奈良公園で野外観察の指導を担当し、その間並行して、奈良町では別に依頼した「実地指導講師」が野外観察の指導をした⁵。ここでは、筆者が担当した奈良公園での野外観察の内容を中心に述べる。



図2. 野外観察の経路と観察指導地点
(1万分の1地形図「奈良」をもとに筆者作成)

奈良公園では、東大寺周辺を徒歩で、正味60分間を用いて約1キロメートルの経路を移動しながら10箇所(図2の1~10)の地点で野外観察の指導を実施した(図2)。奈良公園方面には、世界遺産に登録されている寺社として春日大社、興福寺等もあるが、東大寺周辺で実施するのは、東大寺の大仏(および大仏殿)や正倉院が、2015年度現在供給使用されている小学校社会第6学年用の各社教科書で取り上げられていることを考慮したためである。すなわち、野外観察の指導では、観察の方法面だけではなく、実施場所や観察内容についても小学校歴史学習との関連を意図した面がある。観察内容には、歴史的建造物や遺構のほか、奈良公園を構成する各種の要素も取り上げ、公園を造成および管理する行政側の働きすなわち奈良県の視点を学生に把握させることを意図した。さらには、奈良公園に生息するシカ⁶や植物も取り上げ、公園管理との関連を学生に把握させることを意図した。以上を勘案し、野外観察指導の現地で筆者が当日の冒頭に学生に示した着眼点は次の2つである。

- (1)シカと人間の関係ー共生
- (2)観光客を迎える地域社会

これらはともに、学生がこれまで「気づかなかった」(井

田2000)視点であると想定し、用意・提示したものである。なお、2つの着眼点のほかに、学生には地図⁷の読み取りも課している。

3. 2. 野外観察の内容

学生に(1)のシカと人間の関係を把握させるため、筆者が現地で観察対象に取り上げた要素には主に植物に関する次のア~エの諸点がある(北川・伊藤2004)。

ア. ナンキンハゼについて(図2の地点1ほかで説明): 奈良公園ではナンキンハゼが昭和初期に導入植栽され、現在では多数繁茂しているが、これは、シカがナンキンハゼの葉をほとんど食べないことの影響である。ナンキンハゼは、新緑や紅葉が美しいことから観光資源になっているとの評価も可能であろうが、この繁茂の是非については、関係者の間で議論がある。

イ. ディアラインの形成について(図2の地点2ほかで説明): 奈良公園では、サクラの仲間の樹木も多数植栽されている。シカは、サクラの新鮮な葉を好んで食べる。成獣の場合、後ろ足で立つと地面から約1.9メートル付近の枝まで届いて葉を食べることができるため、約1.9メートル付近で枝の高さが線状に揃うという現象が見られる。この線を「ディアライン(鹿摂食線)」と呼んでいる。ディアライン形成の結果、樹木の下を人は容易に歩くことができ、また、見通しも効くため、来訪する観光客にプラスの効果をもたらしているといえよう。

ウ. シバについて(図2の地点2で説明): シカは、シバを好んで食べる。シバが生長するつどシカが食べるため、奈良公園周辺のシバは常時短く刈り取られた状態になっている。この結果、奈良公園のシバは人為的に刈り取る必要がなく、シカは「歩く芝刈り機」とも呼ばれている。こうしたシバ景観も観光資源になっている。シカがシバの上に糞を落とせば、昆虫が介在してシバの養分になる面もある。

エ. 樹木の幹を保護するための金網について(図2の地点2ほかで説明): 雄シカは、角を樹木の幹にこすりつける行為をとる習性がある。このことは樹木を傷める原因になっている。これを防ぐために、奈良公園では、ナンキンハゼ等を除く樹木の幹を金網で覆うのが一般的である。この作業は、(2)の視点ともつながるが、奈良公園を管理する奈良県が負っている。

視点(2)の観光客を迎える地域社会について学生に把握させるために、筆者が現地で観察対象に取り上げた要素には次のオ~キの諸点がある。ここでいう地域社会とは、主に奈良県行政のことである。

オ. トイレに見られる工夫(図2の地点3ほかで説明): 一般に、公園にトイレを設置することは、行政にとって重要な仕事のひとつである。公園のトイレは公共施設のひとつである。奈良公園でもところどころにトイレを設置し、来訪者の便宜を図っている。授業時の観察経路か

らは4箇所のトイレの存在を確認することができる。奈良公園に設置されているトイレには、少なくとも3つの工夫が見られる。一つ目は、ドアの作りをシカに侵入されないようにしていることである。シカがトイレに侵入すると、トイレトーパーを食べてしまうことがあるという。二つ目は、トイレの外観に関して、黒瓦で屋根を葺くなど歴史的建造物と調和するようにしていることである。三つ目は、体の不自由な人が使えるようバリアフリーを取り入れた作りになっていることである。以上のうち、一つ目は奈良公園に特有の工夫である。二つ目は奈良公園に限らないことであるが、歴史的建造物の豊富な地域でしばしば見られるものである。

カ. 奈良公園に設置したベンチや街灯等を自然景観と調和させている工夫(図2の地点3、4、5ほかで説明): 奈良公園では、他の公園同様にベンチ、街灯、柵などを設置しているが、それらは自然景観に調和するよう、さまざまな工夫をしている。例えば、ベンチは木と石で作成、茶色で塗装すること、柵や藤棚等に擬似木を使用すること、街灯のポールは茶色で塗装するなどの工夫である。

キ. 東大寺大仏殿を見学するための経路等をバリアフリーの観点で整備していること(図2の地点8ほかで説明): 東大寺大仏殿の見学者は、回廊の南西角付近から入場するが、ここには段差が存在するため、車椅子で来訪する人向けに、別に設置されたスロープから入場できるような設備を施している。また、大仏殿に到る石畳の道路においても、中央部分の表面を円滑に仕上げ、車椅子等が進みやすいように工夫している。これらは東大寺側の取り組みである。バリアフリーの観点は、先のトイレの説明でもしているが、ここでも見られる。

ここで取り上げたア～キの事象を見る視点は、いずれも、小学校第3・4学年の社会の授業で活用できるものであると想定している。

以上のほかに、東大寺に関わる建造物、遺構、展示物として、東西の塔の基壇跡(図2の地点6、9)、東西の塔の上に乗っていたと推定されている相輪を復原した展示物(図2の地点7)、南大門および仁王像(図2の地点10)等についても、来歴等を現地で説明した。これらの事象は、小学校6学年での歴史学習に直接的に関わるものであるといえよう。

学生は、野外観察後に観察内容および考察を地図および文章に表し、レポートを作成することが課された。その後提出されたレポートによると、本学の学生は、ほとんどが過去に奈良公園に来訪した経験を持ち、大仏殿に入場した経験も有していることがわかる。しかし、野外観察の授業で取り上げたア～キの事象や東大寺に関わる事象は、日頃気づくことのない視点であり、学生は、身近な地域で日頃見落としていることが多数あることに気づかされたという。

4. 地域調査の意図と内容

4. 1. テーマ設定の条件と留意点

地域調査に関して筆者が個々の学生に課したことは、テーマ設定、調査の実施、調査結果のとりまとめ、発表(ポスターセッション)に至る一連の活動である。発表を除く活動は授業時間外に取り組ませた。ここでは、各活動の中からテーマ設定の段階に焦点化させ、意図や実際の状況を具体的に述べる。地域調査を実施するうえで、学生が主体的に調査テーマを設定することは、もっとも重要な段階であると考えられるからである。いったんテーマを設定すれば、その後の活動の方向性はほとんど決定してしまうといってもよい。また、筆者の側からテーマを与えることはできるが、それでは「学生主体」の重要部分が抜け落ちることになる。そのため、学生が主体性を持ってテーマ案を検討しやすいように、できるだけわかりやすく条件や留意点の設定をするよう努めた。

学生には、7回目の授業の際に、テーマ設定から発表(ポスターセッション)に至る一連の活動の流れを説明し、また、地域調査のテーマに次のような条件が備わっていることを示唆した。

- (1) 本学の「身近な地域」における環境創造または環境問題に関わるもの
- (2) 小学校の社会科と何らかの関係があるもので、自分の関心があるもの
- (3) 他人と異なる独自なものであること
- (4) ひとつのものに絞られていること

最初に挙げた条件の中の「身近な地域」は、「本学から容易に歩いて行ける範囲」であり、多くの学生が共有できる場所であると説明した。環境創造の例としては、野外観察の指導の際に取り上げた、奈良公園に設置したベンチや街灯等の外観を自然景観と調和させている工夫がこれに当たると学生に説明した。また、環境問題は、奈良公園に来訪した観光客がごみを放置していくことを例に挙げた。地域調査に先行させて実施した野外観察の指導は、地域調査のテーマを考えるための参考事例を示す意味もあったのである。

テーマ設定の際に留意すべきこととして学生に示したのは、環境地図作成の方法であり、次の4点である。ここでいう環境地図とは、環境創造または環境問題を地図に表したもののことである。

- (1) 野外における徒歩を伴った観察、調査、測定などをもとにして作成する。自分の体や感覚を使った観察、調査、測定であることが望ましい。
- (2) どこでどのような観察、調査、測定などをし、地域の環境創造または環境問題に関わってどのような発見や感動があったのか、あるいはどのようなことを考えたのか、が他の人に具体的にわかるような環境地図を作成することが望ましい。
- (3) 指定された模造紙(たて長)1枚に、地図を基本とし、

ことば・文などを加えて表現する。絵や写真などを用いることもよい。平面的表現を基本とする。文字、地図、絵などは手書き（描き）を原則とする。

(4) テーマの文言は 30 字以内とする。

以上のようなテーマに備わる条件や留意点を説明した 10 日後、すなわち発表の 25 日前に、まずテーマ案を電子メールによって個々に提出（送信）することを課した。その結果、たとえば「奈良町における自動販売機の分布」⁸ といったテーマをはじめ、学生からはさまざまなテーマ案が提出された。提出の前にテーマの適否などについて個別に相談があった場合はできるだけ対応したが、提出後は、筆者の側からテーマ案の修正を求めることは避けた。中には、学生間でテーマ案が明らかに重複している場合もあったが、筆者から変更を求めるのではなく、当該学生同士で話し合っ調整するようにさせた。なお、提出されたテーマの文言の意味を筆者が理解できない場合は、その旨を当該学生に伝え、修正を求めた。



写真 1. ポスターセッションの様子
(2015 年 7 月 6 日、学生会館にて)

4. 2. 地域調査のテーマと学習指導要領の内容の関係

学生は、テーマを設定後、テーマに沿って地域調査を行い、12 回目と 13 回目の授業で発表（ポスターセッション、写真 1）を行った。その後の 14 回目の授業では、個々のテーマと小学校学習指導要領社会第 3・4 学年の内容(1)～(5)がどのように関連するかを説明した。内容(6)は、主として都道府県に関するものであり、該当するテーマがないため取り上げないこととする。

提出されたテーマ案は、おおよそ、奈良町に関するものと奈良公園等に関するものに分類することが可能である。そこで、表 1 では、学習指導要領(1)～(5)の各内容を縦列に置き、奈良町と奈良公園等の地域区分を横列に置いて、全体の枠を作成し、ひとつのクラス（月曜日実施分）で提出された個々のテーマの中でキーワードと考えられる文

言を当てはめた。「町家」や「商店」のように同一地域方面での地域調査間でキーワード自体が重複する場合があります、ここで取り上げたテーマ数は、計 40 例である。また、テーマの中には、複数の内容と関わるものが少なくとも 3 つあり、その場合は、副次的に関わる内容の欄では()を付した。たとえば、「町家」は(1)に位置付けたが、(5)にもあてはまる。「ため池」は、過去の土地利用が「ため池」だったことを問題にしたテーマ設定であり (5) にあてはまるが、水系との関連から見れば(1)にもあてはまる。「井戸」は「昔の暮らし」との関連で(5)に位置付けられるが、飲料水として利用される場合があり、(3)にもあてはまる。なお、奈良町や奈良公園は観光地としての性格を有する地域であることから、観光地に特有のテーマと考えられるものには下線を付した。

表 1 から二つの特徴を見いだすことができる。まず、学生が設定したテーマは奈良公園等の方面よりも奈良町方面に関わるものが多いことである。この背景には、通学時に奈良町を通る学生が多いことのほか、奈良町のほうが調査範囲の設定が比較的容易であるという事情が介在したと考えられる。次に、学生が選択したテーマと学習指導要領との関連は、内容(1)から(5)まで分散し、多様なテーマ設定が見られたことである。この結果、小学校学習指導要領社会の第 3・4 学年の内容(1)から(5)に関して、学生の「身近な地域」で具体的実例が多数挙げられることにもなり、本授業で扱う内容には、学習指導要領の内容のほとんどを含むことになった。また、学生自身に、「身近な地域」には多様なテーマが存在することに気づかせる結果となったといえよう。

ただし、二つ目の特徴に関しては、(3)にあてはまるテーマが比較的少なかったことも事実である。(3)に関しては、廃棄物（ごみ）と飲料水は取り上げられたが、電気とガスに関するテーマ設定はなかった。この理由は、とくにガスについては調査しやすい可視的な事象が簡単には見つからなかったことであると考えられる。電気については、電柱や電線を取り上げることができようが、当該クラスではテーマ設定がなかった。

このように、多少の課題は残ったが、初教法社会に学生主体の地域調査を取り入れたことは内容的・質的に所期の成果をもたらしたといえよう。初教法社会は 2 単位 30 時間という限られた授業時間の中で小学校社会の内容や指導法をできるだけ広範に取り上げなければならないが、網羅することには困難が伴うといつてよい。しかし、本報告で示したように、第 3・4 学年の内容に限って言えば、地域調査において学生が多様なテーマを取り上げるような工夫をすることによって結果的に広範な内容を取り扱うことが可能であるといえよう。

表 1. 小学校学習指導要領社会第3・4学年の内容と地域調査テーマとの関連（筆者作成）

第3.4学年の内容	奈良町関連テーマ	奈良公園等関連テーマ
(1) 自分たちの住んでいる身近な地域や市（区、町、村）について、次のことを観察、調査したり白地図にまとめたりして調べ、地域の様子は場所によって違いがあることを考えるようにする。	道路、駐車場、建築物、建物の高さ、住居用建物、町家、 <u>おもてなしトイレ</u> 、街路樹、 (ため池)	水の流れ、公共交通設備、バス停、 <u>トイレ</u> 、 パブリックアート、 指定保存樹
(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。	アーケード商店街、商店、飲食店、 酒屋、自動販売機	小売店、商店の営業時間、 <u>土産物店</u> 、 <u>鹿せんべい販売所</u>
(3) 地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。	ごみ、ごみ箱、(井戸)	ごみ
(4) 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。	火事対策、防火設備、 道路・交通標識、信号機、 カーブミラー	放置自転車
(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。	店舗の創業年、寺社、神社、会所、 身代わり猿、ため池、(町家)、 井戸	

注) 下線を付したテーマは観光に関連するもの、()内は、関連する可能性がある場合

5. おわりに

本稿は、本学で担当している授業のひとつである初教法社会に野外観察および地域調査を取り入れている意図や内容について具体的に述べたものである。野外観察の指導では、学生が日頃気づくことのない視点による観察を奈良公園で展開したことを述べた。地域調査では、学生から多様な地域調査テーマを引き出せるような条件設定および留意点の提示を行い、その結果、学生から提示されたそれぞれのテーマは、小学校学習指導要領社会の第3・4学年の内容(1)~(5)のいずれかにあてはまることが明らかとなり、結果的に小学校社会第3・4学年の広範な内容を取り上げることが可能になった。

本稿では、初教法社会の成果を地域調査のテーマとの関連に限定して述べたため、地域調査の個々の内容や地図作成経過についてはほとんど述べることができなかつた。この点は今後の課題とし、他日を期したい。

注

1) 篠原(1995b)が、小学校社会に関わる教職授業における「野外調査」の実施状況について、全国の教員養成大学・学部を対象に行った調査によると、回答した49大学のうち、11校が「野外調査」を実施している。11校の実施内容については、

- 「観察主体」6校、「聞き取り・計測など調査主体」1校、「両者を兼ねる」4校という回答結果であった。篠原(1995b)の調査から20年以上経過しているため、2015年現在の状況については改めて調査する必要があるが、2015年度現在において、小学校社会に関わる教職授業に地域調査を取り入れた取り組みが、実際には行われている可能性がある。
- 2) 野外観察および地域調査以外の7.5回分の授業の内容は、シラバスによる限りは、地理学習と歴史学習の占める割合が高く、公民学習の内容は乏しく見える。しかし実際には、新聞を扱う15回目の授業のほか、野外観察および地域調査の内容に公民学習的要素が多々含まれるため、全体として不足はないと考えている。
- 3) 奈良公園は、1880年に開設が認可され整備が始められた公園で、現在は奈良県が管理する660ヘクタールを有する都市公園である(奈良地理学会2000)。
- 4) 奈良町は、特定の区域を指す名称ではなく、明治期の奈良市旧市街地の範囲で、現在も歴史的町並みが比較的保存・維持された地域を指している通称である(奈良地理学会2000)。本稿では、とくに元興寺を中心とした地域を指して「奈良町」と呼ぶことにする。
- 5) 奈良町では、主に歴史的町並みをテーマとした野外観察の実施を意図し、学外の建築家および都市計画実務家に実地指導講師を依頼している。道路事情等を考慮し、奈良町では、25

～30名の学生をさらに2分割して12～15名の単位で野外観察の指導をしている。

- 6) 奈良公園に生息するシカは野生のニホンジカであるが、人に馴れており、1957年に「奈良のシカ」として天然記念物に指定されている(奈良地理学会 2000)。一般財団法人奈良の鹿愛護会が、2015年7月16日に調査した結果によると、奈良公園および周辺の調査範囲内におけるシカの生息総数は1,191頭であった。奈良の鹿愛護会HPによる。2015年11月26日検索。

URL : <http://naradeer.com/>

- 7) 国土地理院発行10,000分の1地形図「奈良」(平成18年度作製)の一部分を拡大コピーし、学生に配布して指導に用いた。
- 8) 山田(2014)は、飲料自動販売機に「身近な地域」の調査対象としての教材的価値が十分に備わっていることを具体的に述べている。

参考文献

- 井田仁康(2000)、「人間形成における野外観察・調査の意義—大学における教職科目の実践を通して—」、筑波大学教育学系論集、第25巻1号、筑波大学、pp.71-81.
- 井田仁康・藤崎頭孝・吉田剛(1992)、「初等教員養成学部における身近な地域の野外調査に関する指導—上越教育大学の場合—」、新地理、第40巻2号、日本地理教育学会、pp.36-48.
- 岩本廣美(1993)、「社会科における環境教育の実践に関する—

考察—奈良公園における野外観察を通して—」、奈良教育大学教育実

践研究指導センター研究紀要、第2号、奈良教育大学、pp.23-32.

北川尚史・伊藤ふくお(2004)、奈良公園の植物、トンボ出版、215P.

篠原重則(1995a)、「小学校教員養成課程における地理野外調査の実践報告—香川大学教育学部の事例—」、香川大学教育実践研究、第23号、香川大学、pp.19-38.

篠原重則(1995b)、「社会科における教員養成の実態と問題点—野外調査の技能育成の視点から—」、社会科教育研究、第73号、日本社会科教育学会、pp.33-39.

外池智(2010)、「社会科教員養成における地域の教育資源を活用した授業構成演習—秋田大学教育文化学部社会科教育研究室の取り組みを事例として—」、社会科教育研究、第110号、日本社会科教育学会、pp.57-68.

奈良地理学会(2000)、大和を歩く—ひとあじ違う歴史地理探訪—、奈良新聞社、339P.

西脇保幸(1997)、「教員養成課程における社会科野外実習の指導法について—観察を主体とした巡検の実践を例に—」、横浜国立大学教育学部教育実践研究指導センター紀要、第13号、横浜国立大学、pp.115-127.

山田周二(2014)、「大阪府における小学校区単位でみた飲料自動販売機の分布—身近な地域調査の対象としての教材的価値—」、新地理、第62巻1号、日本地理教育学会、pp.44-56.